様式第３号

# 令和６年度　学校経営報告書（自己評価）

| 学校番号 | 62 | 学 校 名 | 静岡県立遠江総合高等学校 | 校 長 名 | 森　健司 |
|---|---|---|---|---|---|

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

| | 取組目標 | 成果目標 | 達成状況 | 評価 | 成果と課題 |
|---|---|---|---|---|---|
| ア | **基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を軸に、心身ともに健康・健全で自他の生命（いのち）を尊ぶ心を育てる教育を推進する。** | ・爽やかな挨拶を意識できた生徒70%以上<br>・身だしなみを意識して生活できた生徒 90%以上 | ・挨拶はどの学年も90%を超えた達成率となった。(95%)<br>・身だしなみも90%を超えた達成率となった。(94%) | A<br>A | ・学校全体が落ち着いてきているので、このような結果になったと思う。身だしなみについては、数名ではあるが同じ生徒が指導を受ける場面が多くある。その対応策を改善していきたい。 |
| | | ・欠席、遅刻、早退者数の減少<br>（昨年１日平均：<br>欠席 17.3 人<br>遅刻 5.9 人<br>早退 2.7 人） | １日平均（４～12 月）<br>欠席数：18.4 人<br>遅刻数： 5.8 人<br>早退数： 2.9 人 | B | 昨年度より変動はほとんどないが、不注意による遅刻を減らす対策が必要である。 |
| | | ・法や学校のきまりを守ることができた生徒 90%以上 | ・どの学年も90%を超える達成率であった。(97%) | A | この状態を維持していきたい。 |
| | | ・生徒手帳の効果的利用ができた生徒 80%以上 | 十分できている 32%<br>概ねできている 29% | B | 端末利用率上昇に伴い「生徒手帳の効果的な利用」が61%と低調となってしまっている。集会等を含めその場で重要なことを書きとどめる習慣をつけさせていきたい。 |
| | | ・「自分には、よいところがある（自分を大切にしようと思っている）」と答える生徒 90%以上 | 十分できている 35%<br>概ねできている 57% | A | 生徒がそのままの自分を認め、他人と比較せず自己価値を感じられるよう、授業・HR・部活動等を通じて全教職員が今後も引き続き対応していく。 |
| | | ・相談できる友人や先生がいる生徒 90%以上<br>・生徒相談件数　昨年比減（昨年 延べ 119 件） | 相談できる友だちがいる生徒 91%、先生が悩みや相談に親身になってこたえてくれる 92%<br>・生徒相談件数延べ 107 件 | A | 3 年生が少し低かったが(88%)、成果目標はほぼ達成できた。特性で困り感あったり相談することが難しかったりする生徒に働きかけていく体制を今後も充実させていく。 |

様式第３号

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| イ | **系列・年次・教科を超えた協力体制のもと、遠高１６の力の育成をめざしたキャリア教育の定着と改善を図り、多様な進路実現を目指す。** | ・生徒アンケート(研修課)で「キャリア教育を推進している」が昨年比増(昨年 86.3%) | 生徒 89.8％、保護者 68.8%と両方とも昨年度を上回った。<br>(保護者については、「分からない」の選択肢があるため生徒と比べて低くなっていると思われる。) | A | C-Learning を通して進路課が情報発信を盛んに行ったことなどが数値の上昇に繋がったと思われる。 |
| | | ・キャリア教育に関するアンケートで、『聴く力』と『計画的に取り組む力』に関して「できない」と回答する生徒０％、<br><br>・『自ら行動する力』と『学びに向かう力』に関して「できる」と回答する生徒 75%以上 | ・『聴く力』について「できない」の回答率は 3 年 0%、2 年は 0.6%、1 年は 0%であった。<br>・『計画的に取り組む力』が「できない」については 3 年 2.3%、2 年は 2.2％、1 年は 3.8%。<br>・『自ら行動する力』の肯定的な回答は 3 年で 85.6%、2 年で 83.1%、1 年で 88%といずれも目標を超えた。<br>・『学びに向かう力』についても全年次とも 85%を超える数値であった。<br>・ＳＵＴの発表では多くの生徒が遠高 16 の力より左記が身についたと述べている。生徒が実感できていることが大切だと感じた。 | B<br><br>A | ・『自ら行動する力』『学びに向かう力』が身についている生徒が多いことがわかる。系列・年次・教科の指導において、生徒自身が計画的に取り組めるような仕組みができていると思われる。進路実現だけでなく、各年次の目標設定について、再確認しながら、今後とも生徒のいろいろな力を成長させていく。<br><br>・早い段階において生徒が課題を見つけ、解決に自ら取り組めるきっかけが欲しい。 |
| | | ・２年次への円滑な移行とキャリア学習の接続をサポートする。<br><br>・「卒業後の進路を見据えて系列・選択科目を選ぶことができた」と答える生徒 80%以上 | 「キャリア教育を推進している」と答えた生徒は 92.4%<br><br>・1 年次生は「産業社会と人間」の授業を通し、各系列で学ぶことの意義や実現できる進路について説明を行った結果、生徒回答 96.3% | A<br><br>A | 視野を広げていく指導を今後も継続的に行い、より具体的な方向づけをしていく必要がある。<br>・1、2 年次については職業観の視野を広げる学習として遠高プロジェクトを通して、サポートを充実させていく。 |
| | | ・進路決定率 100%<br>（３年次）<br><br>・希望進路決定率<br>２年次 80%<br>１年次 60%以上 | ・３年次生の就職内定は年内 100%を達成<br>（３年次生の進学未決定は１名）<br>・進路希望調査（７月）<br>２年次生は 100%<br>１年次生は　95% | A<br><br>A | ・各年次団との綿密な連携により、円滑な指導ができた。<br>・進路課と年次とで協力し進路実現につながった。試験に向けたサポートも厚かった。 |

様式第３号

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ウ | 学習習慣の定着を柱にした基礎学力の向上ならびに、全ての教科科目でわかりやすく、主体的な学びをめざす授業改善と評価の改善に取り組む。 | ・家庭学習時間１日平均60分、定期テスト１週間前から 90 分をめざす。<br><br>・「課題内容は自分の学力にとって適当なものである」と答える生徒 70%以上 | ・十分できている 11%<br>概ねできている 23%<br>進路実現に向け地道な努力を続ける生徒も多く見られてはいた。<br><br>・年次によるバラツキはあるものの、すべての年次で生徒は 70%以上と回答。 | C<br><br>A | ・一人１台端末の活用により、学習意欲の向上と情報を調べる能力が身についた生徒が 70%以上であった。この結果を踏まえ、今後は端末での家庭学習へとつなげたい。 |
| | | ・「以前よりも本に親しむことができた」と答える生徒 60%以上<br><br>・効果的な新聞活用指導の継続<br>・図書室の利用者数増 | ・担任副担と連携し朝読書の定着をはかり、本に親しむきっかけを作ることができた。新聞指導や図書室の利用者増は前年に比べ目立った成果を上げることはできなかった。「朝読書の時間には、心を落ち着けて本を読んでいる」と答えた生徒は 94.0% | A<br><br>C<br><br>B | ・担任副担と連携し朝読書の定着には成果があった。<br>・新聞活用指導（NIE）は、担任負担が大きいため在り方を検討。<br>・図書室の利用者増への取り組みは、今年度の現状を踏まえ図書室担当を中心に次年度に向けて対策を検討中である。 |
| | | ・定期訪問時の研究授業や研究協議への参加率 100%<br><br>・全教員がアクティブラーニングを意識した授業を管理職の授業観察時に実践（実施率 100%）<br><br>・公開授業のへ参加回数平均３回以上<br><br>・測定ツールで把握した学力に基づき、授業改善に取り組んだ教員 80%以上 | ・該当教科の教員の参加はおおむね達成できた。（※出張等による不参加者を除く。）<br>・ＡＬを意識した授業実践については多くの教員がＩＣＴや協同的な学びを取り入れた授業実践を行っている。また定期訪問時において、指導主事からの高評価も得た。<br>・公開授業への参加については授業参観シートを作成したが、周知徹底されなかった。<br><br>・測定ツール結果をすべての教員に供覧することで、授業改善に取組めていた。 | A<br><br>B<br><br>B<br><br>B | ・授業公開習慣を撤廃し、毎月の授業見学促進週間を設けたが定着することはなかった。他の授業を見学することで新鮮な気づきが得られることから、なんとか促進させたい。引き続きそのための方法を考えたい。<br><br>・「授業を見直す・検討する」ことを考える機会をもっと増やしていきたい。<br>・測定ツールの有効活用方法を検討するため、参考にすべき個別の実施内容について全職員で共有していきたい。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ・年２回の授業アンケートを実施し活用する。（継続）<br><br>・全科目で評価方法の点検を行い、シラバスに反映させる。<br>（実施率 100%） | ・年２回の授業アンケートを実施し、各教科で授業改善に活用した。<br>・全科目で評価方法の点検を行い、シラバスに反映。<br>（実施率 100%） | A<br><br>A | ・授業アンケートの項目について「令和の学び」に合わせて、見直しが必要である。<br>・全科目のシラバスが完成し、全員が３観点評価を実施した。来年度は、再度見直しをしていく必要がある。 |
| エ | 新学習指導要領への移行を踏まえ、新しい教育課程の検討を軸にしたカリキュラムマネジメントの推進を図る。 | ・探究活動、ＩＣＴ活用のための校内研修の実施と外部研修への積極的な参加<br><br>・校内研修の教職員満足度 70%以上<br><br>・教育課程の点検、検討を進める。（社会に開かれた教育課程を意識）<br>・ESD（持続可能な開発のための教育）の理解推進 | ・総合教育センター、教務課、総合学科推進室の協力の下、探究活動・ＩＣＴ活用などをメインとする校内研修を実施することができた。また、個々の教員についても関連した研修に参加する機会が多く見られた。<br>・探究活動についての研修に関する満足度は「有意義」が 55.8%、「少しは有意義」以上が 90.7%。<br>・本年度より自由選択科目群が多い新教育課程を運用している。<br><br>・１年次の「産業社会と人間」の授業で地域に根差したＳＤＧｓをテーマに講演会、調べ学習、発表会を実施。 | A<br><br>A<br><br>A<br><br>A | ・多くの部署の協力もあり、探究活動、ＩＣＴ活用などへの意識づけができた。<br><br>・特に探究活動については次年度以降も教員間で研究し合う機会を設けていく。 |
| オ | 双方向の積極的な地域連携と外部発信により、社会に開かれ、地域に愛される学校づくりを推進する。 | ・キャリア教育に限らず、生徒自身が地域に出て行く機会を増やす。 | （全系列）<br>12 月の企業学校訪問で 2 つの企業･大学等を見学。<br>（食品園芸系列）<br>・年 3 回の地域のイベントに運営・参加。<br>・講師招請を企画し、専門性を高めた。<br>・近隣小学校と農業、食育の交流活動の実施<br>（機械技術、電子情報系列）<br>・２，３年次生対象に専門講師による自動車 | B | 系列ごとではないが、地歴公民科の「郷土研究」や理科、農業系列の授業で外部人材と積極的に関わっている。<br>探究学習活動などでは地域との連携や専門分野の人材活用も大いに期待できるため、指導方法や体制、評価方法について模索していく。<br>・生徒自らが運営することで、若い発想が地域の抱えている課題の解決の一歩となった。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 技術教育を行った。<br>(ライフデザイン系列)<br>「保育実践」では幼稚園における保育実習、福祉専攻は福祉実習を実施した。 | | ・フラワーアレンジメント全国大会で３位受賞。<br>・生徒の指導性と社会性を伸ばすことができた。 |
| | | ・各部活動による年１回以上のボランティア活動の実施<br>（運動部 12 部活）<br>（文化部 11 部活） | ・運動部３部活が実施（野球、陸上、男子テニス）<br>・文化部７部活が実施（吹奏楽、美術、書道、地域家庭、茶道、写真、食品園芸） | B | 地域から愛される部活動となれるよう、自発的活動を促す指導を引き続き行っていく。 |
| | | ・系列や専門分野での外部人材の活用推進 | ≪地歴公民≫<br>「郷土研究」では１年を通して地域のフィールドワークを行い、森町に対する生徒の知識や経験を豊かにすることができた。<br>≪芸術≫<br>森町の伝統工芸、伝統音楽において、外部講師指導の下、授業を毎週行うことができた。<br>≪家庭≫<br>保育実践では、幼稚園実習を行わせてもらうとともに、園児を体育大会に招待し交流することができた。<br>フードデザインでは、専門学校講師を招聘。<br>≪農業≫<br>地域が主催するイベントに運営側として参加した。農業関係の外部講師を招聘。<br>≪工業≫<br>外部講師を招き自動車技術教育を実施。 | B | ≪今後の取組≫<br>・系列の授業を横断的に取り組む。<br>・授業作品展や発表の場を設け、多くの方に見てもらう機会とする。<br>・授業内容に絡めてオンラインで海外の高校生との交流。<br><br>３年次生の活動が主になってしまった。生徒の縦の繋がりを作り継続できるようする。<br>今後も外部との連携を積極的に増やしていきたい。 |
| | | ・「学習活動において、地域との交流が行われている」と答える生徒 70%以上 | ・「地域とかかわる機会がある」と答えた生徒は 88.0% | A | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ・学校ブログの更新、週１回以上<br>・各部活動や系列の活動状況、学校行事の様子等を、大会や行事終了後１週間以内に、ホームページに掲載<br>・「学校ホームページを見たことがある」と答える生徒 70%以上 | ・月平均として週１回の更新を実施。<br>・新しい情報に対して速やかに掲載できた。<br>・ホームページは c-learning の閲覧状況と比較し 70%を超えるのは難しい状況。 | A<br>A<br>B | ・引き続き生徒に関わる様々な活動を、速やかに掲載していく。<br>・ブログ等を掲載し、魅力化を検討していきたい |
| カ | 効率の良い業務遂行、業務改善ならびに行事の点検と精選を進め、職員の適正なワークライフバランスの推進と安全･安心な教育環境の整備に努める。 | ・年３回の防災訓練のうち、事前通知なしの訓練の導入検討<br>・防災に関するアンケートの実施、「防災意識の高まった」と答える生徒 80%以上<br>・学校警備及び防災計画の継続的な点検、改善 | ・防災訓練を３回予定していたが、８月と 12 月の２回の実施。<br>（８月は台風による休校のため机上訓練）<br>・自衛隊による防災講話を実施した。<br>・防災に関するアンケートを実施し、90%以上の生徒が「防災意識が高まった」と回答した。 | B<br>A | ・総合学科として、各系列や選択科目の教室よりの避難や事前通知なしの訓練を検討<br>・防災意識の高まるような防災訓練等の実施を検討<br>（自衛隊・消防士など）<br>・防災計画や危機管理マニュアの継続的な点検や改善を行う。 |
| | | ・時間外勤務の出勤簿への正確な記入<br>・１ヶ月あたりの時間外勤務 45 時間以内、年間 360 時間以内<br>・夏季休暇の完全取得<br>・定時退勤日<br>午後４時 40 分退勤励行<br>午後６時完全退勤<br>・平常日<br>午後７時退勤励行<br>午後８時完全退勤<br>・部活動ガイドライン履行達成率 80% | ・勤務時間入力システムが浸透し、正確な勤務時間の把握が可能。<br>･12 月末時点での時間外勤務 45 時間超えの回数及び人数は 135 回 31 人であり、昨年の 160 回 35 人よりやや減少した。<br>また､80 時間越えの回数及び人数は、48 回 10 人であり、昨年の 49 回 10 人とほぼ同数であった。 | B | 働き方改革の浸透により長時間労働が徐々に改善されている。しかしながら一部の教員の時間外勤務状況は依然として長時間である。業務の平準化を意識し、心身の健康が保持できる環境を整備するよう取り組んでいく。 |
| | | ・コンプライアンス研修毎月１回<br>・教職員の不祥事０、体罰０ | ・毎月職員会議に実施<br>・不祥事１<br>体罰　０ | A<br>C | 教育者として、生徒や保護者、市民からの信頼に答えるよう、さらには教育の質を高めていく必要がある。研修を通じ個々の認識によって違いが生じてくる意識レベルを統一していくことが重要である。 |

様式第３号

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ・教員と事務職員の連絡を密にし、計画的な予算執行の実施。 | ・厳しい予算の中で連絡を取り合い、予算の範囲内での執行ができた。 | A | ・引き続き校内での連携を密にし、適正な事務執行に努める。予算は年々厳しくなり、要望通りに進められないことが課題である。 |
| | | ・日頃からの清掃、点検、整備(校舎内外、農場含む)、危険箇所等の早期発見と改善に努め、施設に関する事故０ | ・教員や管理業者との連携がスムーズに行え、危険個所等の早期発見ができ、改善できた。 | A | ・生徒の安全安心を最優先に考え対応していく。経年による施設、設備の劣化、不具合には優先順位を決め県に要求していく。 |